

# FD NEWS LETTER

二松学舎大学 自己点検・評価実施委員会



FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称で、本学では、授業アンケート、FD講演会など、各種FD活動を実施しています。

今回は、2021年度活動実施内容等についてお届けします。

『FDニュースレター』は、年次報告として、FDに関する情報を取り纏め、情報を共有することにより、それぞれの活動を組織的な活動へと発展させるための一助として発行しています。

## 2021年度 活動実施報告

### FD講演会（詳細報告は2ページ）

（※組織的なFDとするために、各種委員会と協働して開催）

☆2022年2月25日（金）13:00~16:00

オンライン・対面の併用形式で開催しました。

### 各種会議等におけるFD活動の報告

☆教員間で実施される、基礎ゼミ・語学会議・学科会議等のFD活動および教育改革に関するプロジェクトについて支援を行うとともに、実施後には提出された報告書を取りまとめています。

### 公開授業

☆公開授業を実施しました。

「経済学B/経済学入門B」 2021年9月21日・27日

「法学B/法学概論B」 2021年11月4日・12月17日

「国文学演習①B」 2022年1月19日・21日

同一科目を担当する複数教員間で相互に授業参観を行った後、授業実施や学生へのフィードバック、評価方法についてのすり合わせが行われました。特に現在は、授業方法として対面・オンライン・オンデマンド型が併用されていることを鑑みて、参加方法の異なる学生への配慮や授業進行の工夫について、教員間で共有する機会となりました。

### 学生による授業アンケート（Web形式）

☆春セメスター：2021/7/1~7/19

秋セメスター：2021/12/3~12/22

Webアンケート形式にて実施しました。

学生による授業アンケートの科目毎の選択質問項目の集計結果（詳細）は、教員に個別に配信し、教育効果について確認する機会としています。『学生による授業アンケート結果』（冊子）として、図書館で閲覧することができます。

### Oxford EMI Course（詳細報告は2ページ）

☆本学教員・迫田幸栄准教授が参加しました。

### 教育改革に関するプロジェクト

☆今年度は、5件のプロジェクトを実施しました。

- AWSを利用した教育環境整備、マニュアル作成及び集中講座の実施
- Raspberry Piを用いた実践的情報・IoT教育実施環境の整備と実施
- 統計教育に関する統一教材の作成
- 「近代文学研究入門」に関する教科書の作成
- 「文学部基礎ゼミナール」の新旧担当者による授業運営に係る意見交換を行い、教育内容と学生への履修指導の向上を図るFD



## FD講演会

2022年2月25日（金）に全学FD講演会および大学院FD講演会を開催しました  
（Webexを利用したオンラインと会場での対面開催）

当日は、教員70名・事務職員10名が参加しました。

### 第1部 全学FD講演会

『人文社会系大学におけるAIおよびデータサイエンス領域について』

山梨学院大学 学習・教育開発センター 顧問 船戸 高樹氏

『他大学の研究費不正事案について』

学長 江藤 茂博

### 第2部 大学院FD講演会

『教育現場における著作物利用と著作権』

明治大学 情報コミュニケーション学部 教授 今村 哲也氏

#### 【FD講演会を終えて】

船戸先生のご講演では、他大学のDX化推進計画の事例をあげるとともに、大学の置かれた現状などをふまえ、DX化やAI時代へ向けて、社会に貢献できる人材の育成が必要なことを再確認する機会となりました。

江藤学長からは、公的研究費の不正使用防止に対する意識の向上と浸透を目的にお話いただきました。

今村先生のご講演は、教員として踏まえておくべき著作権について、具体的事例や利用方法を、詳しく、かつ分かりやすいご講演をいただきました。

## Oxford EMI Courseに参加して

国文学科 准教授 迫田 幸栄

2021年8月27日から9月3日までの間、「Oxford EMI Course 千代田キャンパスコンソ」を受講させていただいた。

上記プログラムは英国のオックスフォード大学が提供する英語による教授法（English Medium Instruction）の向上を目指すもので、Zoomによる全面オンライン形式で行われた。日本や韓国から計21名、様々な専門領域の大学教員が参加し、法政大学を始め、新潟県立大学や神戸女学院大学、韓国のKAIST（カリスト）などからとてもアクティブなメンバーが集まり、授業運営・授業改善に役立つ多くのヒントを得ることができた。また、他大学や異なる領域の先生との意見交換や議論は大変励みとなった。

COVID-19のパンデミックの最中、日本でも諸外国でも高等教育における次なる方策や対応案の開発、研究は立ち止まることなく進んでいる現状を知り、大いに刺激となった。会期中の6日間はオンライン形態のみであったが、講師（英国）と我々研修者（日本と韓国）の間にある物理的な距離や時差などの障壁が見事に取り除かれ、さまざまなレベルの学生のための授業の組み立て方、理解を深める教授技法など、EMIの理論と実践を、講義、グループワーク、ディスカッション等を組み合わせた形で受講した。その基盤となったのは初日から続いたMoodle（ムードル、学習支援ソフト）上でのポートフォリオ（学修記録）と言っても過言ではない。ぜひ今後本学にもこのすばらしいシステムを導入していただきたい。

研修者である我々は、毎日日本標準時の零時よりLMS（学習管理システム）上に開放される様々なアサインメント（個人で行うものと、グループ内のメンバーとの共同作業のもの両方）を当日16時の期限までに完成させ、二時間後の18時より、二名の講師によるリアルタイムのアセスメント及びレクチャーを受け、初日より振り分けられたグループあるいはシャッフルされたグループでのブレイクアウトセッションも毎次あった。20時過ぎた頃に研修自体は一旦終了するが、質疑応答の時間が用意され、そこで交わされる様々な情報や意見交換でさらに多くの学びを得ることができた。最終日には、英語による授業進行のみならず、日本語での授業進行にも応用したい等の声があった。



二松学舎大学

2022年3月31日発行  
【お問い合わせ先】 二松学舎大学 大学改革推進課  
TEL: (03)3261-1285  
FAX: (03)3261-7413  
E-mail: [gakumu@nishogakusha-u.ac.jp](mailto:gakumu@nishogakusha-u.ac.jp)